別紙1

令和2年度　農山漁村振興交付金（山村活性化対策）
事業実施主体　評価結果

1．事業評価の実施

令和2年度に実施された農山漁村振興交付金（山村活性化対策）の事業について、「農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領」（平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知）の第9の1の（1）の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2．評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R2	R3	R4		
北海道	今金町	ソーシャルタウン今金町推進協議会	●	○	□	A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

（注1）「事業実施段階」の凡例：　○・・交付対象年度（計画）　●・・交付対象年度（実施済）　□・・目標年度（計画）　■・・目標年度（実施済）
（注2）「評価」の区分：　A・・優良　B・・良好　C・・低調

3．第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領の第9の1の（1）の規定に基づき、第三者である八尾　稔啓から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

有限会社エイ・エル・ピー　代表取締役　社長　八尾稔啓

【意見聴取の概要】

事業実施計画書や実績報告書等の資料を確認していただき、目標達成のための取り組み内容から事業の達成状況について意見を聴取した。
初年度は調査研究を中心とした実態把握と課題抽出が中心的な実施内容であったが、生産した農産品の現状の販路や加工等の付加価値の状況などよく研究されている。販路開拓のための展示会出展といった積極的な行動もあり、次年度以降の雇用拡大に期待できる。

別紙2　（任意評価様式第1号）

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	ソーシャルタウン今金町推進協議会	事業開始年度	目標年度	事業実施期間（令和2年度）
2. 取組振興山村名	北海道瀬棚郡今金町	令和2年度	令和4年度	令和２年９月９日～令和３年３月３１日
3. 事業費（うち国費）	10,005,739円（10,000,000円）			
4. 第三者氏名	八尾稔啓			
5. 事業評価				

総合評価

○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 （①から④までを踏まえた総合的な評価）		（評価理由及び助言等のコメント） 計画していた内容はほぼ滞りなく実行できていた。目標数値も達成しているため、順調に事業が進んでいる。 次年度より販路開拓が本格化してくるため、開発する商品の方向性も含め期待を寄せている。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

① 取組状況

○ 目標の達成に資するのための取組が行われたか。		（評価理由及び助言等のコメント） 加工品開発のための原料調達や保管物流に関する調査など、加工品開発に必要な調査研究ができていることを評価いただいた。 協議会開催やセミナーなどはパンデミックの影響により、ウェブ会議等に切り替えたものもあるが、展示会への参加など、現段階で実施できることにすばやく切り替えて実施していることも評価につながった。 ニーズ調査や工場見学調査結果から、加工場のあり方や加工品開発の方向性が見えてきたので、次年度に期待を寄せている。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

② 事業実績

○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		（評価理由及び助言等のコメント） 本事業では、加工場の稼働の幅の向上により、「しごと」を増やし雇用を拡大していくモデルである。 本年度から加工場の運用がスタートしたこともあり、目標としていた雇用に結びつけることができた。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

③ 実施体制

○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		（評価理由及び助言等のコメント） 行動制限はあったものの、ウェブ会議システムなどの非対面コミュニケーションを活用してスケジュール管理を行えていた。 パンデミックは続くと思われるため、その場その場に応じて柔軟に対応できる体制としたい。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）	

④ その他

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2
（任意評価様式第2号）

学識経験者等第三者について

ソーシャルタウン今金町推進協議会

1．第三者の氏名、住所 ① 氏名：　八尾稔啓(やおとしひろ) ② 住所：　富山県射水市戸破3560番地	3．第三者の経歴 1957年7月　　山口県宇部市生まれ 1963－1981年　神戸市長田区在住 1981年　　小樽商科大学商学部商学科卒業 （会計学・剣道部・応援団・サークル総連・体育会など） 1981年～89年　江崎グリコ株式会社勤務 （菓子営業、量販店販促企画、婦人社員指導など） 1989年～97年　㈱アイバック（富山）勤務 （企業CIプロジェクトリーダー、教育・採用コンサルタント） 1997年～　㈲エイ・エル・ピー　設立　現在に至る ※ALP（アクティブライフプランニング） 長男の重度の精神薄弱をきっかけに独立。ストレスに関する学びから各種資格を取得。産業、学校、医療の3つの現場で研修・授業・カウンセリングなど幅広く経験。 ＜実績＞ 企業関係（大手から中小まで、幅広い業種、全国各地で多数） 役所関係（市役所、教育委員会、商工会議所など多数） 学校関係（大学、専門学校他、中高含め100校以上で実績あり） 医療関係（病職員、看護師、医療関係各種協会など多数） 福祉関係（社会福祉法人、福祉施設など多数）　　延1000拠点以上
2．第三者に選定した理由 障害者雇用に造詣が深く、これまでも事業推進でアドバイスを受けていたため。	

別紙2
（任意評価様式第3号）

令和２年度	事業開始 １年目	北海道瀬棚郡今金町	ソーシャルタウン今金町推進協議会

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

〇事業の実施状況
多様な人材が活躍できる町＝ソーシャルタウン今金町の実現に向けて障がい者や高齢者が安定的且つ持続・継続的に雇用できる一次・二次加工場（経済活動）の創出により、雇用のみならず、定住促進や、地域産品の高付加価値化を実現し「人口減少対策」と「地域経済再生」といった当町における喫緊の課題改善を図るとともに、地域内で産業と福祉・教育が連携し、障がい者と健常者が共生する地域社会（多様な人材が活躍できる町＝ソーシャルタウン今金町）の実現を目指すことを目的として、事業実施計画に基づき、次の内容の事業を行った。

地域資源の賦存状況・利用形態等の調査の実施
活用する地域資源の基礎情報の把握や物流コストの整理といった調査を進めながら、計画する事業の持続可能な経営戦略を組み立てた。
加工場を保有している事業者に視察を依頼するなどして、市況や今後の見通し、後発で展開するリスクチェックを行った。
新たに開発する商品について試作テストを行い地域で生産する野菜の加工の相性を確かめるとともに、増設する加工場事業の事業計画の策定に役立てた。

地域資源の消費拡大/販売促進/付加価値向上の取組
市場調査（WEB調査）を通じて新たに開発する商品の訴求ポイントを探った。販路開拓方法についてのヒアリング調査等により同業他社の動向を研究した。
不特定多数の観光客が訪れる近隣PA等において観光客誘客可能性検討調査を行った。

〇今後の事業構想
本年度に実施した調査研究や試作品開発結果を踏まえ、新商品の商品化と販路開拓を推進したい。

別添

参考資料（開発商品一覧）	ソーシャルタウン今金町推進協議会





別紙2

（任意評価様式第4号）

令和２年度	事業開始 １年目	北海道瀬棚郡今金町	ソーシャルタウン今金町推進協議会

山の恵みマッチング2020への参加実績	１：商品登録のみ	２：商談会参加	３：展示会参加

１：山の恵みマッチングWEBサイトへの商品登録のみ実施した
２：第１回商談会（R2.10.30、11.4）又は第２回商談会（R2.12.4）に参加した
３：東京ビッグサイトでの展示・商談会（R3.2.3～2.5）に参加した

〇対象商品、参加状況等
設営:2 月 2 日(火)
運営:２月３(水)・4(木)・5日(金) 各日10:00～18:00 ※最終日撤収

今金男爵ボイル加工品のPR

〇得られた課題や商談の成約状況等（成約や共同開発など販路拡大に繋がった場合は、可能な範囲で具体的・定量的に成果を記載すること）
ブース訪問者へ商品サンプルを配布の上、名刺交換を行なった。
期間中に交換した名刺数は90社だった。
現在１件と商談中である。

〇（参加後の）取組への反映・フィードバック状況、今後の取組方針等
パンデミックにより家食が加速しており、レンジでチンできるボイルじゃがいもは一定程度需要があると評価を受けた。
このため、宅配を中心に一般消費者へ販売する事業者と商談を行なっている。

今後は、１次加工ではなくお菓子等のお土産品を開発して展示会に挑みたい。